

## 1. はじめに

本研究は、群馬県高崎市の中心市街地および商店街における店舗・事業所の業種構成を可視化し、高崎市中心市街地の空間特性を検討することを目的とする。その際には、位置情報付きの電話帳データを利用することで、行政区域、商店街振興組合への加盟・非加盟の状況を超えた一連のストリートとしての商店街の実態を把握する。これにより、中心市街地の全体像を把握・可視化し、今後の中心市街地の活性化に向けた課題とゾーニングの可能性を検討していく。

本研究ではタウンページ掲載のゼンリン社の位置情報付き電話帳データである企業サーチデータを用いて分析を行った。ゼンリン社の企業サーチデータとは、NTTの電話帳であるタウンページに掲載されている商店、学校、企業の事務所、工場、役所や警察署などの官公庁の情報に、業種と詳細な位置情報である緯度・経度のデータを組み合わせたものである。まず本研究では、高崎市全域の2020年10月のタウンページデータをもとに作成された企業サーチデータを入手し、高崎市内の店舗・事業所のデータベースを作成した。次に、高崎市が定める第3期中心市街地活性化基本計画が定めた中心市街地区域における店舗・事業所の業種別の分布傾向を把握するとともに、商店街別に店舗・事業所を集計することで、3つの空間スケールに基づいて考察を進めた。

## 2. 高崎市中心市街地の空間特性

高崎市全体における事業所を集計すると、軒数が上位の業種は美容院や理容院、歯科などの身体や健康に関係するものや建設関係の業種であった。一方、高崎市の中心市街地の範囲内においては飲食店や物販、宿泊施設の集積が顕著であった。高崎市の中心市街地においては、北西部には飲食店、高崎駅周辺には金融機関や不動産業などのサービス業関連の事務所が広がっている傾向がみられた(図1)。また、高崎駅の西口には店舗・事業所数が集積して一方、高崎駅周辺にも駐車場や空き店舗などの低利用地・未利用地が点在している現状が

示された。中心市街地の活性化を図るためには高崎駅周辺の土地利用の高度化を検討していく必要が示唆される。

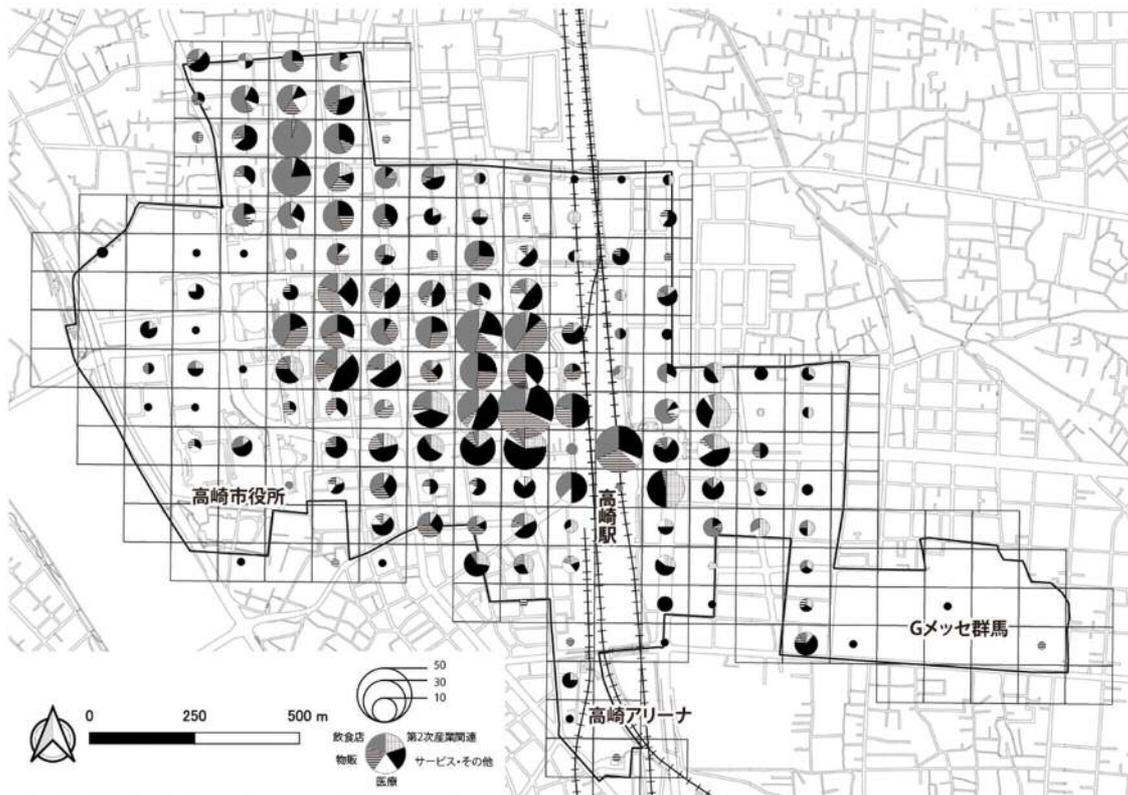


図1 100 m メッシュ単位における店舗・事業所数と業種構成

(企業サーチデータにより作成)

### 3. 中心市街地の賑わいを創出するために

高崎市の中心市街地域域内においては、いくつかの業種は特定の地域に集積していることが明らかになった。特に、中心市街地の北西部にはスナックやバー、和風飲食店などの飲食関連の業種が集積している。また、商店街には面していないものの、中心市街地北西部の柳川町周辺の路地には多くのスナックやバー、和風飲食店が集積しており、商店街振興組合の枠組みを超えた取り組みが重要となる。中心市街地北西部には1913年(大正2年)に創業した高崎最古の映画館である高崎電気館ビルをはじめとした古い建物が多数残存しており、昔の街並が残された空間となっている。こうした特定の業種の集積している旧

来の飲食店街は来街者に地域を強く印象付ける可能性があり、魅力的な路地を「旧市街」としてアピールすることも考えられる。

たとえば、宮崎県宮崎市では中心市街地に位置する複数の商店街が集積している地域をまとめてニシタチと称し、商店街振興組合の組織を超えたニシタチまちづくり協同組合が組織され、共通の提灯を街路に設置してニシタチの統一感を演出している（図 2）。ニシタチまちづくり協同組合の取り組みに対して行政も支援を行っており、ニシタチの店舗を紹介する「ニシタチ夜な夜な MAP」を作成し、パンフレットの内容を Web でも発信している。こうした情報発信は、ナイトスポット・ナイトライフ観光における治安の課題に対して安全に飲食できる店舗の情報提供も可能にしている。宮崎市にはコンベンション施設やゴルフ場などの施設を備えたシーガイアがあり、ニシタチは MICE のアフターコンベンションとして日本の飲み屋街を体験できるナイトスポットとしてビジネス客や観光客、市内企業の従業員の需要も取り込んでいる。高崎市においても、コンベンション施設である G メッセ群馬や高崎アリーナといった大規模施設の需要を中心市街地にどのように取り込めるか検討していく必要がある。高崎市をはじめとした地方都市の中心市街地の課題に対しては、既存の地域の魅力を活かしながら回遊性を向上させる戦略的なゾーニングが求められる。



図 2 ニシタチの統一感を演出する提灯

(2023 年 3 月筆者撮影)